

21 万羽おりづるプロジェクト 2011 呼びかけ

被爆から 66 年目の夏を迎えようとしています。66 年前、たった 2 発の原子爆弾によって広島で 14 万人、長崎で 7 万人、合わせて 21 万人もの命が奪われました。私たちはあの日のできごとを決して忘れてはいけません。

いま被爆者の方々は自身の被爆体験を通して原爆の悲惨さ、命の重さを私たちに語り続けています。その被爆者の方々の思いを継承し、多くの人々に伝え広めることが未来を生きる私たちの役目ではないでしょうか。

しかし、この 21 万人という数字があまりにも大きいと、いったいどれほどのできごとだったのかを受け止めることが大変困難になっています。そこでこの 21 万という数字をリアルに体験するために 21 万羽の折り鶴を集めてみようと考えています。折り鶴は原水爆禁止世界大会・長崎（8 月 7 日～9 日、長崎市民会館体育館）の会場に持ち寄ります。

集まった 21 万羽の折り鶴一つひとつが亡くなった方たちの命です。そしてこの 21 万羽の折り鶴を前にして、あの日に消えた命を思い起こし、二度と同じ過ちを繰り返さないという決意を固め合いたいと思います。

3 月 11 日、東北地方の太平洋沖で起こった巨大地震と津波によって多くの方が亡くなられ、いまだ行方がわからない方もたくさんおられます。またそれに続く福島第一原子力発電所の事故により周辺住民は避難を余儀なくされ、日本全体に放射能汚染の不安が広がっています。

いま私たちは、広島・長崎の惨禍を体験した国の国民として、一丸となって被災者のみなさんを支援し、被災地の復興に全力をあげなくてはなりません。そしてこれからどのような未来を私たちがつくっていくのかを考えるときでもあります。

多くの方がこの「21 万羽おりづるプロジェクト 2011」に参加され、折り鶴を折ることを通じて原爆の悲惨さ、命の重さ、そして私たちの未来について考えていただければ幸いです。

ご協力よろしくお願いいたします。

この「21 万羽おりづるプロジェクト 2011」を、被爆者の方々の思いを継承し、核兵器廃絶を願う青年たちで呼びかけます。

有馬 理恵（舞台女優）

石垣 正人（日本のうたごえ全国協議会）

大石 史生（P-nats／ピースナガサキ核兵器なくそう青年のつどい）

大越 文（国民平和行進・2010 年通し行進者）

小林 秀一（プロボクシング・元日本ウェルター級チャンピオン）

佐々木 祐滋（ミュージシャン）

新屋 朝貴（学生）

田中 潮（アマチュア写真家）

前川 史郎（原水爆禁止日本協議会）